

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けて

子どもの心と 学びをつなぐ

～「社会情動的コンピテンシー」に着目した
学校教育のアプローチ～



1. そもそも「社会情動的コンピテンシー」ってなんだろう？

横浜市では、令和4年度から「社会情動的コンピテンシー」に着目して児童生徒を見とり、学校経営等に生かしていく調査研究を行ってきました。コロナ禍を経て、「学校の存在意義」が改めて問われた今、学校で協働的に学ぶことが子どもの成長に、本当に寄与しているのかを明らかにするため、本研究は始まりました。学校で育まれるものは教科等の学力のみではない、という視点に立ち、先生たちの経験に基づく指導の在り方や児童生徒の実態把握の在り方をサポートするものとして「社会情動的コンピテンシー」に着目しています。

本リーフレットでは、「社会情動的コンピテンシーとは何か」というところから、その捉え方、学校経営や学級経営への生かし方等について紹介しています。

ここからは、横浜市の学校で働いているさくら先生とみなと先生、そして横浜国立大学の鈴木先生が、「社会情動的コンピテンシー」の世界へご案内します！

社会情動的コンピテンシーとは



さくら先生

社会情動的コンピテンシーっていったいどのようなものなのでしょう？いわゆる「非認知能力」とは違うのでしょうか？

基本的には同じものと思っていただいて構いません。もともと、「認知能力（学力テストや知能検査などで測定されている力）以外の力」という意味で、「非認知能力」という言葉が使われました。横浜市では、他者との関係の形成・維持や、心身の健康・成長につながるような心の性質に焦点化したことが明確になるよう、「社会情動的コンピテンシー」と呼んでいます。



鈴木先生



みなと先生

なるほど！社会情動的コンピテンシーには、色々種類がある、と聞きましたが、横浜市では四つを特に重視していますよね？それぞれどんな力のことなのでしょう？

横浜市では、「メタ認知」と「知的好奇心」、「知的謙虚さ」と「共感性」の四つの社会情動的コンピテンシーに着目しています。「メタ認知」と「知的好奇心」は「目標に向かうための力」、「知的謙虚さ」と「共感性」は「他者と協働するための力」といえます。



鈴木先生



さくら先生

社会情動的コンピテンシーを身に付けるにはどのようにすればいいのでしょうか？特別な訓練が必要なのでしょうか？

社会情動的コンピテンシーを育成するためのプログラムも提案されていますが、特別なプログラムがないと身に付かないというわけではありません。社会情動的コンピテンシーは、普段の学校生活や授業、学校行事等を通じた「人との関わり」の中で身に付けることも可能です。また、社会情動的コンピテンシーを身に付けることは、将来のウェルビーイングや学力などにとって重要になります。



鈴木先生



<学校で「人と関わる」経験>

目標に向かうための力

メタ認知

知的好奇心

他者と協働するための力

知的謙虚さ

共感性



<将来のウェルビーイング>

2. 社会情動的コンピテンシーをどのように確認するの？



ところで、子どもの社会情動的コンピテンシーの状況はどのように確認すればいいのですか？

「横浜 St☆dy Navi」で確認することができます。「横浜市学力・学習状況調査」の「生活・学習意識調査」には、社会情動的コンピテンシーを測る質問項目と回答結果があります。



社会情動的コンピテンシーに関わる質問項目の例

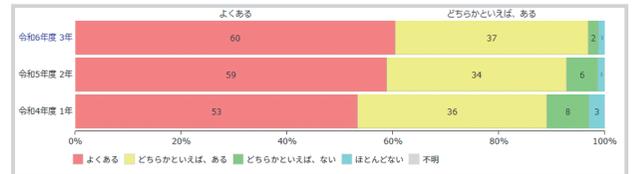
メタ認知	<ul style="list-style-type: none"> 課題に取り組んでいる途中で、自分のやり方がうまくいっているか、自分で確かめながら取り組むようにしている うまくいかないときには、なぜできないのかを考えて、やり方を変えたり、次の方法を試したりしている
知的好奇心	<ul style="list-style-type: none"> 「不思議だな」「もっと知りたいな」と思うことがある 気になったことがあると、とことん調べたいと思う
知的謙虚さ	<ul style="list-style-type: none"> 人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることもある 意見が分かれたときには、それぞれの立場に立って考えるほうだと思う
共感性	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしている 嬉しそうな人や楽しそうな人が近くにいると、自分も嬉しくなったり楽しくなったりする



「横浜 St☆dy Navi」では、主に
①質問項目単位の回答分布
②コンピテンシー単位の得点分布
を確認することができます。

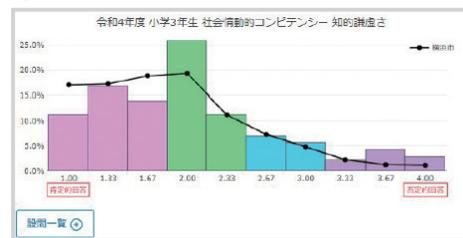


①質問項目単位の回答分布



①の回答分布では、赤い部分が増えていけばいいのですか？

②コンピテンシー単位の得点分布



★ヒストグラム：データを階級（一定の区間）ごとに区切り、各階級の度数（児童生徒の割合）をグラフにまとめたもの。左側ほど肯定的な回答、右側ほど否定的な回答を表す。



いいえ、そうではありません。社会情動的コンピテンシーは、学力とは異なり、「**得点が高ければ高いほど良い**」と単純に解釈することはできません。学力調査の結果や、日々の子どもとの関わりから分かること等と合わせ、総合的に子どもを見とるためのサポートツールとして捉えることが重要です。

「横浜 St☆dy Navi」から子どもの社会情動的コンピテンシーの状況を把握する

市学状の「生活・学習意識調査」では、社会情動的コンピテンシーに関わる設問が全部で21問あります。それぞれの設問における集団の状況はもちろんのこと、市平均との比較や同じ集団の経年変化、各教科における学力層ごとの状況などを瞬時に見ることができます。次の例を見てみましょう！

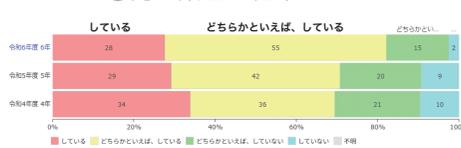
【設問・メタ認知】

課題に取り組んでいる途中で、自分のやり方がうまくいっているか、自分で確かめながら取り組むようにしていますか。

①市全体との比較でみる



②同じ集団を経年でみる



③教科ごとの学力層でみる



肯定的な回答は市全体と同じくらいだけど、積極的に「している」子はやや少ないな。問題の解き方や学び方を自分で確かめる方法を身に付ける必要があるかもしれない。



学年が上がるにつれて、「どちらかといえばしている」という回答が増えているけれど、日頃の子どもの様子を見てみると、「あっているのかな？」と試行錯誤しながら進めている様子だから、このまま様子を見ていこうかな。



学力の高い子どもほど、自分でやり方を確かめているんだ！私の授業では、子どもが自分の学びを振り返る時間や方法は十分だろうか？



3. 社会情動的コンピテンシーと学力の関わりは？

将来の学力の予測

学力との相互関係



さくら先生

この3年間の研究で、どんなことが分かってきたのですか？

令和4年度からの3年間の調査で、大きく二つのことが分かってきています。

一つめは…

小学校4年生以降に測定された社会情動的コンピテンシーは、将来の学力を予測するという事です。

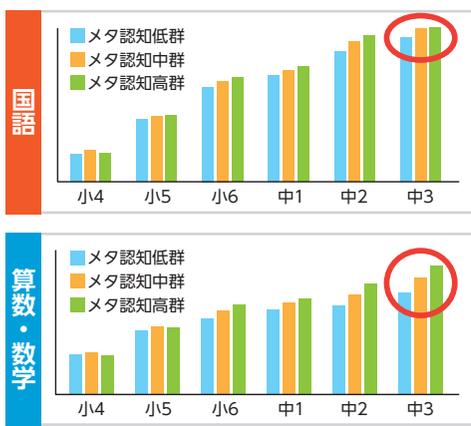


みなと先生

ということですか？

このグラフをご覧ください。令和4年度のメタ認知得点をもとに、児童生徒を、「メタ認知が低いグループ」「メタ認知が中程度のグループ」「メタ認知が高いグループ」

のいずれかに分類し、令和6年度の市学状の結果を比較したものです（図中の学年は令和6年度のもの）。たとえば「中3」の結果から、中学校1年生のときにメタ認知の数値の高かった生徒ほど、3年生4月時点での「学力」は高い傾向にあると分かります。



鈴木先生



鈴木先生



みなと先生

社会情動的コンピテンシーが身に付けば、学力も高くなる、ということですか？

社会情動的コンピテンシーが高まれば自然に「学力」が高まる、というわけではありません。たとえば知的好奇心が高まり、疑問に思ったことを自分で調べてみたり、継続的に学習に取り組んだりするようになることで、「学力」は高まると考えられます。そのため、社会情動的コンピテンシーの数値が高まれば、自然に「学力」が必ず高くなるわけではないので、注意が必要です。



鈴木先生



みなと先生

そうなんです！社会情動的コンピテンシーを育むことで、学習への取り組み方が変わり、結果として「学力」の向上につながる、ということなのです。

そのとおりです！



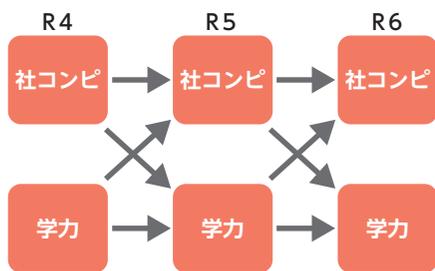
さくら先生

二つめは…

社会情動的コンピテンシーと学力の間には相互関係があるということです。

私は、なんとなくそう思っていたのですが、どのような関係でしょうか？

たとえば、新しい知識・技能を身に付けたり、できなかったことができるようになったりすると、新しい疑問や興味をもったり、さらに知識・技能を身に付けたいという意欲が湧いたりします。つまり、学力が向上すると知的好奇心も高まる傾向があります。このように、社会情動的コンピテンシーが学力の向上に関わるだけでなく、学力もまた、社会情動的コンピテンシーの向上に関わっています。



鈴木先生

※ここでいう「学力」とは、テスト等で測ることができる力を指します。
 ※社コンピ：社会情動的コンピテンシーの略称

5. 「人のつながり」を通じて社会情動的コンピテンシーを育んでいます！

A小学校では、「人のつながり」を軸に、学校行事と授業を学校経営の柱として、子どもの「多様な価値観や個性を尊重する態度」を育んでいます。「子どもに委ねる」工夫を通して成長した子どもの様子を、社会情動的コンピテンシーの視点から見とっています。



さくら先生

仮説

学校行事と授業の両輪で社会情動的コンピテンシーを育むことで、多様な価値観と個性を尊重する態度が育まれるのではないかと。さらに、子ども一人ひとりが自己肯定感を高め、前向きに学校生活を送れ、「学力」の向上にも良い効果があるのではないかと。

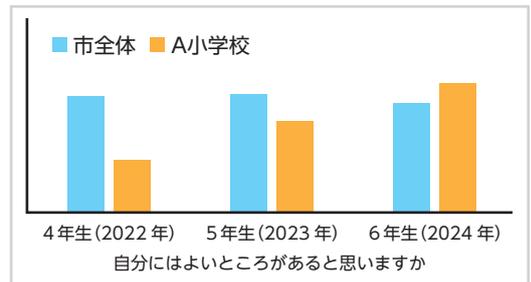
そのために

- ・「学校行事」と「授業」において、子どもが主体的に取り組めるようにしました！
- ・自己選択、自己決定の場を意図的に設定しました！
- ・大人も子どもも目的を共有し、その達成に向けて取り組む雰囲気を作りました！

取組1 「子どもに委ねる」学校行事への転換

子どもが主体的に取り組む「プロジェクト型運動会」のしかけ

- (1) 子どもが自己選択したプロジェクトで
- (2) 考えを出し合って話し合い自分たちで決定し
- (3) 協力して練習や制作に打ち込み
- (4) 完成度を高めて当日を迎え
- (5) ふり返り成長を確かめ合う



⇒「自分にはよいところがある」と感じている児童が増加しました！

主体的に行動することで、自分の強み（長所）や集団の中での自分の特性を理解し、それを発揮したり、思いやりを示したりするようになります。主体的に行動するためには、役割意識や他者への貢献の意識が重要で、協調性が高まることで他者を尊重する態度が身に付くことで、教室での協働学習などが促され、高い学力の獲得にもつながる可能性があります。



鈴木先生

UP!

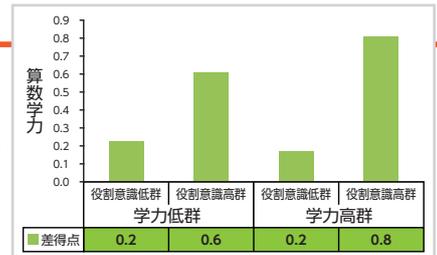
子どもに「委ねる」行事には、「学力」に対しても効果がみられました！

子どもに「委ねる」学校行事を学校全体で推し進めた結果、高い役割意識を持って取り組んでいた子どもは特に、**市学状**における令和5年度から令和6年度の「学力」が伸びました！

「学校行事」の推進＝学力向上、というわけではありません。A校の場合、子どもに委ねる行事をデザインしたことで、子どもが行事に主体的に取り組むことにつながり、その主体性が学習場面にも波及したことで、学力の向上につながったと考えられます。



鈴木先生



取組2 「人のつながり」を大切にした授業づくり

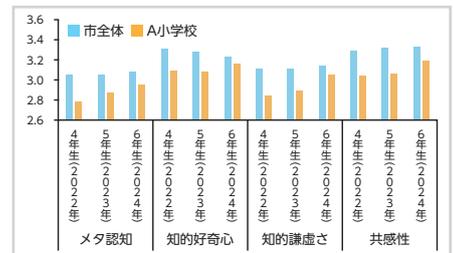
○「どうして学ぶの？」の動機づけ

まちの方々や保育園、プロスポーツチームや異学年とのつながりを生かした単元づくりで、「知的好奇心」を高める取組を行いました。

○「協働学習」に意味をもたせる

問題解決場面では協働学習を大切に、自分の考えに影響を与えた友だちの発言や考え方を中心に振り返りを行うことで、知的謙虚さの価値に気付かせていきます。

⇒その効果は、社会情動的コンピテンシーの数値でも示されました！



A小学校の先生より

社会情動的コンピテンシーの研究に3年間取り組み、「子どもに委ねる」運動会プロジェクトを模索したり「人のつながり」を大切に授業づくりを意識したりした結果、児童の社会情動的コンピテンシーの数値が伸びたことがデータで示され驚いています。何より児童が「自分たちの考えが実現する」という手応えを感じることができたのが大きな成果です。社会で通用する力を身に付けられるよう今後も研究を続けていきたいと思っています。

6. 社会情動的コンピテンシーで貫く学校経営をしています！

B中学校では、学校教育目標である「見つめ・認め・高める」の実現に向け、社会情動的コンピテンシーを共通の基盤として学校教育全体の転換に取り組んでいます。校長先生のリーダーシップの下、生徒の主体性を引き出す支援を、学校経営に資する取組として学校全体で実施しています。



みなと先生

仮説

学校全体で「生徒の主体性を引き出す教育活動」を展開することで、社会情動的コンピテンシーが育まれ、生徒の「生きる力」につながるのではないかと。

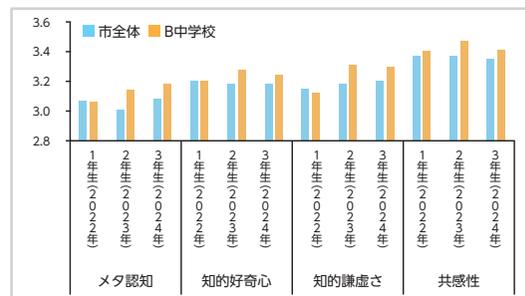
そのために

- ・教員が共通意識をもつことで、学校全体の取り組みにしました！
- ・教員が「しかけて・まって・ほめる」指導を、全体で実践しました！
- ・体験の循環過程を自分で回せる生徒の育成を意識しました！
- ・教員による適切な「フィードバック」を大切にしました！

取組1 社会情動的コンピテンシー育成を土台とした授業改善

「社会情動的コンピテンシー4項目+心理的安全性」で学びを生徒に委ねるための支援

- (1) 市学状の分析や教員の話合いで子どもの現状を把握する
- (2) 課題解決をする方法を生徒自身が見つけ、決める授業をデザイン
- (3) 社会情動的コンピテンシーの視点を取り入れた振り返り
- (4) 振り返りを基に次の学びへ進む「学び方の循環」の習慣化



さらに

これらのことを安心してできるように、「心理的安全性」が確保された集団づくりに努めました。

⇒この取組を続けたことで、
3年間で社会情動的コンピテンシーが伸びました！

分かりやすく、面白い授業をしても、それだけで学力が高まるとは限りません。たとえば、「分からない点はないか」「分からない点については、まず教科書を読み返してみよう」とメタ認知が働くことで理解が促されます。また、協働的な学習の場面では、自分の考えを話すだけでなく、他者の話に耳を傾けたり、自分と他者の考えの違いを考えたりすることで、より深い学びとなります。このように、社会情動的コンピテンシーが土台となって子どもの学びは促されることから、学力の向上という観点からも重要な取組といえます。



鈴木先生

取組2 社会情動的コンピテンシーを育む教員の関わり方の共通理解

○合言葉は「おひたし」

お：怒らない ひ：否定しない た：助ける し：示す

⇒例えば

- ・ものごとの決定権を子どもに委ねます
「どうしたい？」と質問をしたり、子どもが自身の学びを試行錯誤できるような授業をデザインします。
- ・生徒が成功したらほめ、失敗しても責めません
成功体験はもちろん、失敗したことを、子ども自身が次につなげられるような声かけをします。
- ・楽しさを大切にします
生徒が夢中になれるような活動を設定し、「楽しい」と思える時間を創ります。



⇒全教職員が、共通の関わり方の視点をもって、子どもの社会情動的コンピテンシーを育みます！

B中学校の先生より

社会情動的コンピテンシーに注目した学校づくりや授業づくりを意識してから教職員や生徒の様子に変化が見られました。教職員で創りあげた学校目標である「見つめ・認め・高める」が社会情動的コンピテンシーの中のメタ認知に大きくかかわることを再認識し、授業や行事の後の「振り返り」と教員の「フィードバック」を重視するようになってきました。また、ファシリテーションを意識した支援や授業づくりを行うことで生徒の主体性が伸び、学力向上にもつながると感じています。3年間で社会情動的コンピテンシーが伸びてきたデータに手応えを感じています。

※6、7ページのグラフは、得点が高いほど社会情動的コンピテンシーが高いことを意味するように変換してグラフを作成しています

いつでも確認！横浜市で着目している社会情動的コンピテンシー4項目！

メタ認知	自分の学習状況を把握し、それを踏まえて行動を調整する力
知的好奇心	物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力
知的謙虚さ	自分の意見に謙虚な姿勢を持ち、意見を柔軟に変更する力
共感性	困っている人に共感したり、助けてあげたりする思いやり

社会情動的コンピテンシーを理解することで、みとりの解像度を高める

社会情動的コンピテンシーの中身を見ていくと、先生方が普段、子どもに身に付けて欲しいと願い、育成を目指してきたものが多いと思います。また、事例の中で紹介されているような取組を実践されている学校も少なくないと思います。子どもに身に付けてほしい力に「メタ認知」などの言葉がつくと、より解像度を高めて子どもを見とることができます。

知識・技能の獲得と比較して、社会情動的コンピテンシーの変化は目に見えにくく、先生方の日々の取組に意味があるのか不安に感じることもあるかもしれません。しかし、日々の小さな積み重ねが、子どもの社会情動的コンピテンシーにつながっていきます。

本リーフレットは、「横浜市学力・学習状況調査」や研究開発校で行われた調査及びその結果をもとに作成されました。ぜひ、横浜市の教育に役立つものとしてご活用いただけたらと思います。



鈴木先生

「横浜 St☆dy Navi」の活用方法は、YCAN ウェブページに詳しく掲載されています。

YCAN トップページ→教育課程推進室→GIGA→横浜 St☆dy Navi

【スタナビ】<http://inw1.office.ycan/b/ky/kyoikukatei/giga/20240618133937.html>

社会情動的コンピテンシー調査研究 関係者一覧

◆調査研究者

鈴木 雅之（横浜国立大学 准教授） ※研究受託者：横浜国立大学

◆研究協力者

高橋 雄介（京都大学 准教授）

光永 悠彦（名古屋大学 准教授）

◆研究協力企業

ハイラブル株式会社

コニカミノルタジャパン株式会社

◆社会情動的コンピテンシー能力調査研究開発校

青木小学校 石川小学校 権太坂小学校 戸部小学校 永田台小学校 馬場小学校 日枝小学校 東汲沢小学校 平沼小学校
仏向小学校 南吉田小学校 本牧中学校 若葉台中学校 東市ケ尾小学校（令和4年度） 山元小学校（令和5年度）

◆横浜市教育委員会事務局

山本 朝彦（学校教育企画部長）

○教育課程推進室

室長 丹羽 正昇

指導主事 櫻井 千寿

刀根 正秀

松永奈津樹

係長 友田 義治

事務担当 田中彩映子

○教育政策推進課

課長 浦田 晴香

指導主事 谷川 英輔

係長 鶴見 天平

事務担当 新谷祐美子

令和7年1月発行

編集・発行 横浜市教育委員会事務局

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

電話 045-671-3732